新春対談

地域に笑顔を ～心豊かな地域社会の実現を目指して

地域に笑顔とにぎわいをもたらす、安全・安心のまちづくりは、下町人情あふれる荒川区の地域力が支えています。

平成28年の新春区長対談は、西川区長と荒川区観光大使で西日暮里在住の落語家・三遊亭好楽師匠が、荒川区が誇る地域力について語り合いました。

荒川区が誇る抜群の地域力を未来につなげたい

荒川区長
西川 太一郎

「お互いさま」って日本で一番美しい言葉なんです

落語家・荒川区観光大使
三遊亭 好楽師匠

昭和21年生まれ。昭和41年に8代目林家正蔵門下に入門し、林家九蔵を名乗る。昭和46年に二ツ目、昭和56年に真打に昇進。昭和58年に5代目三遊亭円楽門下に移籍し、「三遊亭好楽」に改名。平成19年に荒川区観光大使に就任。長男の三遊亭王楽師匠は、平成21年に真打に昇進し、親子で高座を盛り上げている。

下町人情あふれるまち あらかわ

司会　荒川区は、下町人情が豊かなまちと言われています。荒川区で生まれ育った西川区長は、どのように感じているか伺います。

区長　もう抜群です。荒川区は、他人のことを放っておけない方が大勢いるのですが、この方々に次の世代をしっかり育てていただき、荒川区を盛り上げていただきたい。

師匠　気軽に声をかける、というのは、すごい文化ですよ。私の子どもが小さい頃、「外へ出るときは、誰に助けてもらうか分からないからあいさつしなさい」と言いました。そうすれば、「あっ、あそこのお子さんが歩いている」とか、「あそこに元気な子どもがいるんだ」とか、分かりやすい。黙って行っちゃうと、どこの土地の子どもなのか分からない。人が転んだら助けてあげる、自分が転んだら誰かが助けてくれる、つまり「お互いさま」なんです。お互いさまって日本で一番美しい言葉なんですよ。

区長　人生は、順風満帆の日だけじゃないですよ。おせっかいを焼いてでも、ちょっとしたひと言で元気づけてあげると頑張れることもある。そういうことがそのまちの価値を決めると思うんです。

師匠　マンションでエレベーターに乗って、「おはようございます」と言うことも、すごく良いことです。知らん顔されるより気分がいいですから。

▲対談の様子（右は司会のケーブルテレビ・中西アナウンサー）

町会・自治会は地域力の源

区長　荒川区には、120の町会・自治会があって、区民の町会加入率も63%を超えています。一番のコミュニティの場は、お祭りですね。お子さんにねだられて、お父さんやお母さんが子どもの手を引いて参加する。山車を引いたり、お神輿を担いだりすると、お菓子を配ってくださるのですが、町会の皆さんがそういうことを、全面的にやってくださっています。それから、「ながら見守り」を区が提唱して、商店街の皆さんが仕事をしながら、郵便局・金融機関の方が配達や集金をしながら、子どもや高齢者が犯罪や事故等の被害に遭わないように見守ってくださっています。もう網の目のように、町会・自治会の力が、荒川区を覆っています。

師匠　町会・自治会活動といえば、例えば寒いさなかにやってくれる、火の用心ですね。すぐ窓を開けて「ご苦労さま」って声をかけますよ。自分たちも安全なまちづくりに協力できることとして、近所のお子さんたちに「夜は、遠回りしてもいいから明るいところを歩きなさい」って常に言っています。

地域力を次の世代へ

区長　荒川区の地域力を次世代に残していく取り組みに、「荒川コミュニティカレッジ」があります。荒川区の歴史を学んだり、それを発展させて、ボランティアとして地域活動につなげるカリキュラムがあり、受講した皆さんの活躍でたくさんの成果をあげています。町会連合会でも、退職した消防総監を招いて研修会を開き、防災に対する取り組み等をお話ししていただきました。区民と警察・消防署の皆さんが、よいキャッチボールをやって、まちをよりよくしていく。この下地は、やはり地域力なんです。

司会　ボランティアといえば、好楽師匠も東日本大震災の被災地である岩手県一関市の支援を続けられてきましたが、支援を通じて何を感じられましたか。

師匠　われわれは、地震に関係のない地域も含めて全国に行くじゃないですか。その地域の方に、「東北に行ってください」って言うんです。被災地を見たら、「こんなに大変なことなんだ。われわれは何を協力すればいいのか」って思う。思うことが、協力なんです。やはり「お互いさま」が一番大事で、その気持ちを常に思ってください。被災地にこのピンクの着物を着ていったら、子どもたちが「うわー、笑点の好楽さんだ」ってみんな喜んでくれました。やはり子どもが喜ぶ姿は、勇気をもらえますね。

区長　荒川区は、すべての中学校に防災部を作ったんです。無理な勧誘はしないのですが、手を挙げて入ってくれた生徒が大勢いるんです。平成27年8月に、宮城県南三陸町と岩手県陸前高田市・釜石市を回ってきました。釜石市では、津波来襲時に小学生の手を引いて高台に逃げた、釜石市立釜石東中学校の生徒と交流してきました。荒川区の人材育成は、交流を通じて次世代を育てていくことだと思うんです。この防災ジュニアリーダーと呼ばれる生徒たちは、率先して被災地の中学生と「助けられる人から助ける人へ」というキャッチフレーズで意見交流をして、帰ってきて自分たちで仲間を集めて議論して、そして消火訓練等をしました。本当にすばらしいことだと思います。しっかりした人材を育てることが、荒川区の百年の計だと思っています。

区長が席亭・荒川ふれあい寄席

師匠　荒川ふれあい寄席は、皆さんが、本当によく笑ってくださる。それでわれわれも勇気をもらって、少しうまくなった気持ちになっちゃうんです。

区長　地域の方が全世代で聞きにきてくださって、立錐の余地もないんですよ。

師匠　やっぱり、人が参加することが一番大事ですよね。ただ、素通りして「ああ、なんかやってるな」じゃだめなんですね。その中に入ってもらって、みんなで気心が知れることが大切です。誰がどこに住んでいるか分からないというのは、やっぱりだめですよ。エレベーターでも階段でもどこでも、声をかけましょうよ。

区民の皆さんへのメッセージ

師匠　私、西日暮里に昭和58年から住むようになって、今年で33年。本当に、素晴らしい区に住まわせていただいていると思います。これからも、皆さんに声をかけていただき、荒川ふれあい寄席を大事にしていただくことが、私の願うことでございます。今年1年、楽しいことがあるように。笑っていきましょう。

区長　平成27年に荒川区は、国に提案して「都立公園や区立公園の中に作れない」と言われていた保育園を、特別区域として設置できる認定を受けました。これは、区の若い職員たちが考えつきました。平成28年も、人を温かく思いやれば生まれてくる、素晴らしい知恵を出して、区民の皆さんに主権者として参加していただける区政を運営していきたいと思います。本年もよろしくお願いいたします。

ケーブルテレビ（地デジ11ch）「こんにちは荒川区」の新春特別番組（1月1日㈮～5日㈫午前9時、正午、午後6時・9時からの1日4回放送）で、三遊亭好楽師匠と西川区長の対談を放送します

※編集・問合せ　広報課☎内線2132